

旭川市

井上靖記念館報

第8号



家庭の中の父と母

浦城 いくよ



母は父の一周忌のご挨拶に父との生活を振り返って次のように記しています。

二十一歳と十八

歳のお互いに成人したばかりで知り合った昭和二年から、昭和を通して共に生きてきました。

赤紙を受けての出征は、やはり赤子を抱えて大変な衝撃でありました。又、無事に戻って来た時は例えようのない喜びと安堵に満たされました。今はもう顧みるばかりの六十年であります。それは流星のように消え去ったようにも思えますし、又、永い永い年月でもありました。」

「お父さんと結婚してお母さんの一生はどうだったの」と聞いた事があります。母は「平坦な暮しではなかったけれど、いろんな事があって面白かったよ」と云っていました。

父を中心とした家庭生活でした。細かい家庭の行事などに父は関心を持ちませんでした。土地を探して買い求め、家を建てたのも全部母でした。きっと父は土地も見に行かなかったのではないかと思います。お金のことなどは何も云いませんでした。母にすっかり任せきりだったのでしよう。忙がしくて、それどころではなかったこともありませう。現在住んでいる世田谷の家や軽井沢の山荘について文句

を云ったのをきいたことがありません。

父と母はいわゆる似た者夫婦ではありませんでした。父は気性もはげしく、せっかちなタイプ。母と云えば穏やかではあるが、のんびりすぎるゆつたりタイプでした。

後半生になつて、だんだん会などへのご招待も次々と多くなり、二人で出掛けることも自然にふえてきました。

ある風景をご披露すると、父は朝「今日は何時に何処から車が迎えに来る、それまでに用意をしておいてくれよ」「分かっています」と母。出掛ける日の決まった会話です。ところが、いざ出掛ける時となると大騒ぎ。父はサッサと自分の好みの背広にネクタイをしめて、「早く準備を始めてくれよ、もうすぐ車が来る」と急がしています。母はまだ、洗面所で顔を洗ったり化粧などをしていきます。車が来てからが大変で、母はいつも着物で出掛けます。なれているので、私たちとは違つて着るのは早いのですが、いつも間に合いません。ザツクリとゆるやかに着付けて、とても着物の似合う人です。

「オイ、ふみ、まだか、用意はできたか」車と玄関を何度も往復する父。「早くしてくれ、まだか」本当に父は一生の間に何百回この言葉を繰り返したことでしよう。

母は常に父につくした人ですが、これだけではどうして、もう少し早く出来なかったのか、今考えても不思議な夫婦の光景であ

りました。

食物についても大変な違いがありました。父の食の原点は、伊豆湯ヶ島の「しろばんば」に出てくるおかの婆さん（小説ではおぬい婆さん）の作った料理でした。生涯父はおかの婆さんのライスカレーが食べたいと云っていました。

母の方は父親が明治時代に五年間ドイツ留学していた学者の家庭に育っています。当時から母親が牛タンを煮込んで野菜と共にサンドイッチにしたり、オートミールを食するような家庭でした。庭の木陰げにテーブルを出し食事をすることもありませう。夏は一ヶ月間、伊勢の津や丹後の由良に家を借りて過すのが常でした。獲れたてのお魚をいつも食べていたようです。一方父は、当時は流通も冷蔵庫もなく、新鮮なお魚など食べたこともなく、大人になつてもお魚を食べるのが下手でした。母はよく「お父さんは味がダメね」と云っていました。鮪とうなぎは好きでした。

野菜も嫌いでした。母がなんとか新鮮な野菜をたべさせようと庭に精魂込めて野菜を作っていました。晩年は母の手作り野菜が好物となり「お美味しい、お美味しい」と母を喜ばせていました。父は母の庭の野菜が自慢にもなつてきて、訪れた方にはおみやげに差し上げたり、仕事や会が終わつて送つてきて下さつた方々には、なすの味噌やき、もろみに添えたキウリ、大根おろしとシラスあえやトマトなど庭から獲つてきた野菜をおつまみとして、夜遅くまで二次会、三次会の酒宴が開かれました。

（井上靖長女・井上靖記念館相談役）

井上靖生誕 百年記念事業の報告

平成十九(二〇〇七)年は、明治四十(一九〇七)年五月六日に井上靖が旭川で産声を上げてから、ちょうど百年となる記念すべき年でした。全国各地の井上靖関連機関で記念イベントが行われ、当館でもいくつかの事業を実施しましたので御報告します。

《記念イベント》

1 井上靖生誕日ミニコンサート

とき 五月六日(日)

場所 当館ラウンジ

シンセサイザー演奏

大湊幸秀氏(音楽療法士)

朗読 塩尻曜子氏

(井上靖ナナカマドの会員)

百年記念の井上靖生誕日ということ、館を無料開放し、記念行事として午前と午後一時間ずつ、参加自由のミニコンサートを行いました。

シンセサイザー

やバリ島の民族楽器の解説を交えながら奏者のオリジナル曲を中心に演奏を鑑賞しました。また、『シル



クロード詩集』から何編かの詩を取り上げ朗読し、音楽とのコラボレーションを楽しみました。

2 生誕百年記念朗読会

とき 九月六日(木)

場所 旭川市民文化会館小ホール

朗読 二木てるみ氏(女優)

賛助出演 佐藤健氏(俳優)

演目 ドラマチックリーディング『猟銃』

共催 井上靖ナナカマドの会

井上靖が文壇にデビューするきっかけとなった小説『猟銃』。朗読に音楽や照明などを加え演出し、各地で公演され好評を得ている女優、二木てるみさんによる舞台を生誕地旭川で、初めて上演しました。三人の女性の手紙とそれを思いがけず読むことになった「私」。それぞれの思いが演出を伴った朗読で表現され、作品の魅力を感じとっていただきました。



3 生誕百年記念文学講演会

とき 十一月七日(水)

場所 ロワジュールホテル旭川

講師 宮本輝氏(作家)

演題 「井上靖の文学」

共催 井上靖ナナカマドの会

芥川賞作家で現代の日本の文壇をリ

ドする宮本輝氏に「井上靖の文学」と題して講演していただきました。講演では、中学生のころ『あすなる物語』と出会ったことで文学に目覚め、井上靖が特別な存在であったというお話から、生前の井上靖との交流のエピソード、亡くなる二ヶ月前の雑誌での対談の様子、『孔子』に描かれた世界の解説などをユーモアを交えながらお話しいただき、参加者の皆様に楽しんでいただきました。



《関連事業》

1 NHK大河ドラマ

「風林火山」巡回展

会期 五月二十二日(火)～

五月三十日(水)

場所 当館展示室、ラウンジ

主催 NHK旭川放送局

平成十九年のNHK大河ドラマで井上作品の『風林火山』が取り上げられました。その放送に合わせて、出演者の衣装、道具、歴史パネルなどを展示する巡



回展が全国二十ヶ所で開催され、巡回先の一つとして当館で展示を行いました。

2 井上靖研究会

とき 七月十五日(日)

場所 当館ラウンジ

研究発表

①顧偉良氏(弘前学院大学教授)

『しろばんば』における叙事的方法をめぐって

②玉村周氏(つくば国際短期大学教授)

「井上靖と西域」『敦煌』を中心にして

講演 井上修一氏

(井上靖長男、ブル学院大学学長)

主催 「井上靖の散文詩について」

井上文学の研究

と後世への継承及

び研究者間の交流

を目的としている

「井上靖研究会」

の平成十九年度の

夏季の会を当館で

開催し、研究発表

と講演を行いました。

一年を通じ御参加、御協力いただきました皆様に、謹んでお礼申しあげます。



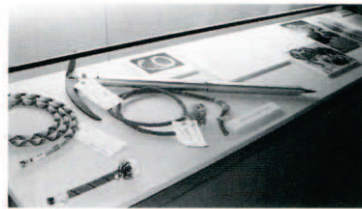
平成十九年度の事業報告

企画展

【井上靖と現代小説 パートII】

四月一日(土)―五月二十日(日)

井上靖の現代小説における特徴をもとに、次の観点から、現代社会に生きる様々な人間像を通して井上靖の世界を紹介しました。一章



井上靖文学の基調をデビュー作にみる、

二章 詩からの出発、三章 孤独のイメージを絵画的に描く、四章 理想の女性像への憧憬を描く、五章 非社会性・純粋培養型恋愛を描く(『氷壁』の周辺を中心に)

とりわけ今回は、作品発表から五十年を経て今なお根強い人気を保っている『氷壁』を大きく取り上げ、モデルとなった「ナイロンザイル事件」の関係者の使用していた登山用具やそれに関わる文献等の展示を通じ、作品の背景などを紹介しました。

【生誕百年記念展

直筆原稿『幼き日のこと』から

六月二日(土)―八月二十六日(日)

井上靖は、明治四十年五月六日、旭川にあった帝国陸軍第七師団官舎で生まれました。父は二十六歳の二等軍医、母は二十二歳で、どちらも伊豆湯ヶ島の出身でした。

幼年時代の思い出を六十代の作者の心の真実に照らしてつづった『幼き日のこと』の第一章「旭川」では、その出生前後のことが、母の記憶と結びついた美しい絵として描かれています。

靖は、旭川の厳しい冬の間、母の暖かいお腹の中にかくまわれていた自分が、雪が解け、春の光が射しはじめる五月に生まれたことを誇りに思っていたと述べています。

本展では、当館所蔵の『幼き日のこと』の直筆原稿を中心に、靖の感性豊かな心に焼き付いた旭川への思いを紹介しました。



【旭川ゆかりの詩人

今野大力とその時代】

九月八日(土)―十月八日(月)

旭川ゆかりの詩人・今野大力は、日露戦争が開戦した一九〇四年二月に生まれました。旭川で小熊秀雄らと交流し「旭

川新聞」等に作品を発表。当時台頭していたプロレタリア文学運動への関心もあり、二十五歳の時上京し「戦旗」「働く婦人」等の編集を手がけますが、検査拷問され、闘病生活の後、三十一歳の若さで無念の死をとげました。企画展では、主に大力の東京時代に焦点をあて、彼の足跡をその困難な時代背景と共に紹介しました。



また会期中の九月三十日には関連行事として、旭川詩人クラブ他による今野大力を紹介する講座及び作品の朗読会を行いました。

(旭川文学資料友の会共催)

【生誕百年記念展

創作資料『おろしや国酔夢譚』から】

十月十三日(土)―十一月十四日(月)

『おろしや国酔夢譚』は、史実に従いながら、物語的な魅力に富んだ感動的な長篇小説で、井上靖の歴史小説の中でも傑出した後期の作品です。

井上靖は、中央アジア史家の加藤九祚氏の示唆と協力を受けて、鎖国時代のロシアへの漂流譚という史実自体のもつドラマ性と、大黒屋光太夫という実在の人物の魅力を最大限に生かすために、幕府側の史料や研究文献、さらに当時のロシア

側の史料をふんだんに使って作品化しています。

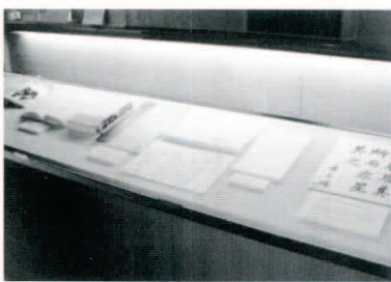
本展では、十年の漂流生活の末、念願の帰国を果たした大黒屋光太夫を中心とした史実と物語の概要を紹介すると共に、作品の原稿、草稿、ノート、メモ、加藤九祚氏の訳稿、その他の膨大な史料の一部を展示し、「調べて書く作家・井上靖」を紹介しました。

【井上靖の直筆色紙展】

一月十九日(土)―三月二十三日(日)

井上靖は、生涯において膨大な作品を世に送り出してきましたが、その間、取材や出版、旅行の折など様々な人々との出会いや交わりなどから、色紙や講演を求められることも多くありました。そのような時、「自分の好きな言葉」を取り上げて色紙に書いたり、スピーチの中で話題に触れたりしています。

本展では、井上家の家訓とも言うべき「養之如春」をはじめ、靖が「自分の好きな言葉」を書き記した直筆の色紙を中心に、その言葉にまつわる背景や解説等を記したエッセイなどを併せて展示し、井上靖の人生観や人となりを紹介しました。



自主事業

◆旭川文学散歩

とき 平成十九年六月十六日(土)

見学先 神居古潭・常磐公園方面

講師 平野武弘氏(旭川実業高校講師)

天候に恵まれ、神居古潭・常磐公園方面の文学碑十カ所を廻りました。最初に神居古潭の九条武子と小林孝虎の歌碑を鑑賞。九条が慈善事業に尽力したことや、巨大な天然岩に刻まれた小林の「神居古潭幻想賦」をアイヌ語の意味と補足説明を加えて読まれました。



続いて旭川で初めて建立された句碑の東本願寺大谷派旭川別院の花輪墨雨の歌碑や、旭川東高校門近くに平成十五年に建立された宮沢賢治の「旭川」の詩碑を見学しました。当時の旭川の街並みや、宮沢が妹を亡くして悲しみに暮れた沢山のエピソードなども伺いました。

昼食休憩の後は常磐公園に移動し、プロレタリア詩人、今野大力や同時期に自由や理想を歌い詩壇に大きな影響を与えた小熊秀雄のほか更科源蔵・大塚千々二・西本一都・岩村通俊といった人々の詩碑

や句碑を鑑賞しました。

作者の人物像や時代背景、込められた思いなどが、講師の暖かな語り口により、深く心に届く文学散歩でした。

◆夏休みおはなし会①

とき 平成十九年七月二十六日(木)

ところ 当館ラウンジ

講師 福田洋子氏ほか旭川こども富貴堂のみなさん

こども富貴堂スタッフによる絵本の読み聞かせ。最初に井上靖が子供向けに書いた『ほくろのある金魚』を朗読、次に『あかいじどうしゃよんまるさん』『おたんじょうびのひ』など、計六つの絵本を朗読しました。



最後の絵本『カニツンツン』では、輪唱に手遊びを組み合わせ、リズムにのって会場が楽しい雰囲気になっていました。

◆夏休みおはなし会②

とき 平成十九年八月二日(木)

ところ 当館ラウンジ

講師 上森仲子氏ほか旭川おはなしの会のみなさん

旭川おはなしの会のみなさんによる昔語り。最初は井上靖の『ひと朝だけの朝顔』を朗読し、その後、六つの昔語りを行ってくれました。次の語りに入る合間に手遊びなども組み込まれ、お子さんが飽きることなくお話を聞いていました。昔語りには楽しい中にも感慨深いものが込められており、子供だけではなく大人も楽しめる内容でした。

◆親子で楽しむ「絵本のひろば」

とき 平成十九年九月八日(土)

ところ 当館ラウンジ

朗読 二木てるみ氏(女優)

演奏 坂元昭二氏(ギター)

九月六日に二木てるみさんによる「ドラマチックリーダーディング 狐銃」の公演が行われたこともあり、当日は台風にもかかわらず募集よりかなり多い参加人数となりました。

導入は坂元氏

のギター演奏。

そこから二木氏

により『いのちのいろえんぴつ』というノンフィクションで

ある絵本の朗読が行われました。



絵本という短い文章が、豊かな表現力によって文学性が高いドラマ世界まで昇華され、朗読中に入るギター演奏も適度

な効果を加えて一層深みのある空間が創られていました。

朗読後のギター演奏では会場の雰囲気にも即興で合わせるなど、参加者が楽しいひとときを過ごすことができました。

「親子で楽しむ」と銘打ってはいませんが、大人の参加が大変多く、大人にも絵本人気が高まっていることを感じました。

◆昼下がりの朗読会

とき 平成十九年十月二十七日(土)

ところ 当館ラウンジ

朗読 古谷野律子氏ほか朗読サークル

いずみのみなさん

演奏 笹野正行氏(ギター)

中野映里氏(フルート)

朗読と音楽演奏の二部構成で第一部では、朗読サークルいずみのみなさんが、井上靖の詩『星闌干』『零れ陽』、短篇小説『殺意』を前半と後半に分けて朗読してくれました。小説の合間には一曲、笹野氏のギター演奏も入りました。

第二部はギタ

ーと中野氏のフルートの二重奏

が行われ、タンゴ系の昔のカフェを思わせる選

曲で楽しませてくれました。

最後には朗読サークルいずみと参加者全員が井上靖の



詩、『ナナカマドの赤い実の洋燈』を笹野氏のギターにのせて朗読し、一体感に満ちて終了しました。

◆第一回文学講座

『孔子』再考2007

とき 平成十九年十一月十七日(土)
ところ 当館ラウンジ

講師 石本裕之氏

(旭川工業高等専門学校教授)

前半は、昨年当館で行われた「井上靖と『孔子』」論語との関連について」と題した講演で語りきれなかった「天命」や「葵丘会議」の補足説明を行われました。後半では「孔子」は、「礼」を重んじる荀子の「性悪説」を主要とした視点で書かれていると、年表や地図などの資料を配布され、例文を取り上げながら説明されました。

◆第二回文学講座

『井上靖、『史記』への視線(序)』

とき 平成十九年十二月一日(土)
ところ 末広図書館

講師 石本裕之氏

(旭川工業高等専門学校教授)

第二回は共催である末広図書館の講座室にて行いました。

井上靖の歴史小説『天平の鷹』を取り上げ、作品の軸となる人物の選び方

や、作風・会話や考え方など、

井上文学には中国の歴史家・司馬遷の筆法が絡

んでいるのでは

ないかという見

方を論じられま

した。また、こ

れに至る根拠などを、井上靖の短篇小説

『異域の人』と、中国の歴史書『後漢書』

を照らし合わせて比較されるなど、大変

聞き応えのある講話が行われました。

『史記』については(序)と題して作

品が書かれた経緯など概要のみで講座時

間終了となりました。



◆冬休みおはなし会

とき 平成二十年一月十一日(金)
ところ 当館ラウンジ

講師 上森仲子氏ほか旭川おはなしの

会のみなさん

夏休みに行われたおはなし会を、旭川おはなしの会の皆様のご協力により、冬休みにも開催することが出来ました。

『雪娘』『北の巨人』など冬にちなんだ五篇の昔語りに加え、合間に手遊びなどを組み込んで、子供が長い時間でも飽きることのない工夫がされていました。また、パネルシアターを用いた遊びも導入

され、子供達は積極的に喜んで参加していました。

夏と違い、井上靖の子供向け

作品は入らない

構成でしたが、

この楽しかった

経験が子供にと

って読書や語り

への興味に繋が

つてくれること

を願います。



◆第三回文学講座

『井上靖の現代小説』

とき 平成二十年一月二十六日(土)
ところ 当館ラウンジ

講師 片山晴夫氏

(北海道教育大学旭川校教授)

演題に加え、『狐銃』を視座して」という副題のもとに講話をいただきました。

前半は井上靖の作品は抒情的作品と叙事的作品の二つに大別されるとし、叙事的作品の原型である『狐銃』を取り上げられました。この作品は戦争で生き残った男の苦しみと、戦後の女性の自立と自己解放を浮かび上がらせた、戦後文学の特徴を表している



の解説でした。

後半では靖の特異な幼少から少年時代

によって形成された考え方や人間像を、

他の国文学者などの考察を交えて講じら

れました。

恋愛面のみ着目されがちな作品を、

戦後という時代背景面から読み解くこと

により、新たな視点で再読したくなる充

実した内容でした。

◆読書会

とき 平成二十年二月二十三日(土)
ところ 当館ラウンジ

講師 秋岡康晴氏(井上靖読書会講師)

井上靖は旭川に生まれ、生後約一年で湯ヶ島へ移っていますが、記憶に残っていない旭川への思いを靖の肉声テープや、長男・井上修一氏のテープを流し説明されました。

また『おろしや国酔夢譚』について吉村昭の『大黒屋光太夫』との比較検討や、映画『おろしや国酔夢譚』の女帝エカチエリ



ーナと庄造との謁見部分のビデオ映像を交えて解説を行うなど、目と耳を通して情報を得られたことで、井上作品への親しみや興味がより深まったように思えました。

平成二十年度事業のご案内

《企画展》

- ◇第一回企画展
「井上靖とふるさと」
4月5日(土)～6月8日(日)
- ◇第二回企画展
「草花が彩る井上文学」
6月14日(土)～8月31日(日)
- ◇第三回企画展
「旭川ゆかりの文学者
宮之内一平の仕事」
9月6日(土)～10月13日(月)
- ◇第四回企画展
「井上靖の初版本展」
10月18日(土)～1月18日(日)
- ◇第五回企画展
「井上靖の紀行文」
1月24日(土)～3月29日(日)

《自主事業》

- ◇文学講演会
6月21日(土)
- ◇旭川文学散歩
7月5日(土)
- ◇夏休みおはなし会
7月29日(火)・8月1日(金)
- ◇吉増剛造朗読会
8月10日(日)
- ◇ロビーコンサート
8月下旬(予定)
- ◇文学講座
10月下旬・11月下旬(予定)
- ◇大人のためのおはなし会
2月下旬(予定)
- ◇読書会
2月下旬(予定)

平成19年度のあゆみ

- 4月1日～5月20日
 - ・第1回企画展 「井上靖と現代小説(PART II)」
- 5月22日～5月30日
 - ・NHK大河ドラマ「風林火山」巡回展
- 5月6日(生誕記念日)
 - ・生誕百年記念 「生誕日ミニコンサート」
- 6月2日～8月26日
 - ・第2回企画展 生誕百年記念展 「直筆原稿『幼き日のこと』から」
- 6月16日
 - ・旭川文学散歩
- 7月10日
 - ・井上靖記念館運営協議会
- 7月15日
 - ・夏季井上靖研究会
- 7月26日
 - ・第1回夏休みおはなし会
- 8月2日
 - ・第2回夏休みおはなし会
- 9月6日
 - ・生誕百年記念朗読会 「ドラマチックリーディング『獵銃』(井上靖ナナカマドの会共催)」
- 9月8日
 - ・親子で楽しむ「絵本のひろば」
- 9月8日～10月8日
 - ・第3回企画展 「旭川ゆかりの詩人 今野大力とその時代」(旭川文学資料友の会共催)
- 9月30日
 - ・今野大力作品朗読会 (旭川文学資料友の会共催)
- 10月13日～1月14日
 - ・第4回企画展 生誕百年記念展 「創作資料『おろしや国酔夢譚』から」
- 10月27日
 - ・昼下がりの朗読会
- 11月7日
 - ・生誕百年記念文学講演会 「井上靖の文学」(井上靖ナナカマドの会共催)
- 11月17日
 - ・文学講座「『孔子』再考2007」
- 12月1日
 - ・文学講座「『史記』への視線(序)」
- 1月11日
 - ・冬休みおはなし会
- 1月19日～3月23日
 - ・第5回企画展 「井上靖の直筆色紙展」
- 1月26日
 - ・文学講座「井上靖の現代小説-『獵銃』を視座して-」
- 1月30日
 - ・井上靖記念館運営協議会
- 2月23日
 - ・読書会

＜年度別入館者数＞

年度	人数
平成5年	12,703
平成6年	20,385
平成7年	16,599
平成8年	14,893
平成9年	14,639
平成10年	16,832
平成11年	15,848
平成12年	13,486
平成13年	11,450
平成14年	12,475
平成15年	13,496
平成16年	10,077
平成17年	7,772
平成18年	6,331
平成19年	7,267
総入館者	194,253

職員異動のお知らせ

- ▽転出
 - 臨時職員 福井真美
 - 嘱託職員 伊藤かずみ
 - 嘱託職員 加藤雅之
 - 臨時職員 渋谷美恵
 - 嘱託職員 川下史歩
 - 嘱託職員 中西 睿
- ▽転入

編集後記

五月がやってくると、井上靖先生の生誕の頃を思い浮かべます。お腹の中で一緒に過ごし、誕生後も一年足らずの一時期ではあったが、旭川での母との暮らしは一枚の絵として心の奥深くに描かれているという。

今旭川は、百花繚乱の靖の好きな季節を迎えている。